

新入生保護者代表 挨拶

満開の桜のもと、6年間の小学校生活を終え、一回りも二回りも大きくなった子供達は、今日まさに、中学校生活という新しい世界に飛び込もうとしています。

新入生の皆さんは、今、とても緊張して居心地が悪く不安そうですが、安心してください。実は、私も、君達以上に緊張しています。今は、居心地が悪くても、3年後に君達が巣立つときは、恐らく、楽しい思い出が沢山つまった居心地の良い三中から離れたくなくて、また、先生や友人と別れるの辛く、泣きながら、あるいは必死に涙をこらえて、卒業式に臨む人が多くいると思います。

私は、新入生の保護者という立場だけではなく、この春に3中を卒業した一人の卒業生の親として、また、開かれた学校づくり協議会の一委員として、3中とは何年も関わってきました。今ここにいる在校生の皆さんの中には、私のことを、3小のジャンボリーの“ダメ”リーダー、“さぼりリーダー”として知っている人もいます。

これまでに各地を転々としてきた経験から、様々な地域や学校を見てきましたが、公立中学としての3中、そして3中を取り巻く地域の環境は、実に素晴らしいものがあります。

とくに、3中を支える先生方の情熱や献身的な姿勢には、いつも頭が下がる思いです。

これまで、両親や家族から愛情を注がれ成長し、小学校や地域の人たちに暖かく支えられて育ってきた新一年生、これからは、立派な伝統と素晴らしい教育環境を誇る3中で、「責任ある自由」という意味がわかる“大人”になるべく、大いに成長してくれると私は期待しております。

今は、期待と不安が入り混じってかなり緊張しているようですが、3中での生活を通じて、一生の思い出となる「青春の重要な1ページ」を刻むことになるでしょう。

無限の可能性を秘めている中学生は、勉強も大切ですが、“くぬぎ祭”や“クラブ活動”、“運動会”などの課外活動にも大いに頑張って「キラキラ輝いた中学校生活」を過ごして欲しいものです。

一生の友となるような「良き友」を得ること、人生に大きな影響を及ぼす「良き師」とめぐり合えること、切に願っています。

本日、新入生をあたたかく迎えて下さった先生方には、今後、勉強や様々な課外活動だけでなく、色々な精神葛藤やトラブルにも、お付き合いいただくことになると思います。

教職員の皆様、ここにいる新入生が充実した中学校生活を過ごせるよう、厳しく、時には優しいご指導を賜りますよう、保護者一同、宜しく願い申し上げます。

平成21年4月7日

新入生保護者代表 岡部 徹

(平成20年度 武蔵野市立第三中学校卒業式 保護者代表挨拶 原案)

以下は、代案。時間が無い場合の定型挨拶。

新入生保護者代表 挨拶

つい先ごろ、小学校最高学年としての1年を終え、堂々と卒業式を行った子供達が、今日は中学校の上級生の前でかわいらしく見えます。

地域の中で、家族や様々な人たちに見守られここまで成長した新一年生。今日は期待と不安が入り混じって少し緊張しているようですが、本日、そんな彼らをあたたかく迎えて下さった先生方には、今後、学習面に関わる事柄をはじめ、中学生活に伴う色々な精神葛藤にも、お付き合いいただくことになると思います。教職員の皆様、ここにいる新入生が立派な三中生となれるよう、時には厳しく、時には優しいご指導を賜りますよう、保護者一同、宜しく願い申し上げます。

平成21年4月7日

新入生保護者代表 岡部 徹

ジャンボリーのサボ？リーダーとして

吉祥寺南町在住 岡部 徹

2003年から12年間の間に、合計9回(第 32～36、39～41、44 回)、ジャンボリーに参加した。50歳という年齢での野外活動は体力的に辛く、また、本業の仕事の方では管理職も務めているので、3日間の参加は、私にとってはスケジュール的にはかなり無理がある。しかし、ジャンボリーに参加するのはとても楽しく、私自身にとっても勉強になることが多い。

かつては、数々の失敗談を生み、後の反省会のネタを作るのが私の役割であったため、役に立たない“ダメ”リーダーと呼ばれていた。今年も、安全・輸送担当の責任者として参加したが、以前と状況はあまり変わっていない。最近、あそべいの後藤館長の実の弟ということで、少しは“ダメ”度が、イメージ的に改善されたような気がする。

川上村では、各種イベントの下準備等の裏方仕事が多いため、私自身は、子供たちのいる班から離れて行動することが多い。班の子供たちから見たら、サボっていつも何処かに行っている、頼りにならない”サボ”リーダーである。このためか、同じ班の子供達やサブリーダーは実にしっかりする。

班のメンバーは、自分達で考えて動き、チームとして野外活動を楽しむことを学ぶので、卒業してからもサブリーダーとしてジャンボリーに再参加する子供も多い。かつては小学生・中学生であった子供たちが、今では立派なリーダーとして参加して大活躍している。12年もジャンボリーに参加していると、子供たちの大いなる成長に接することができ、今となっては私自身の楽しみの一つとなっている。

今年は、小学6年生とともに岩の展望台に上り、岩の上で記念撮影を行った。鈴木亮平さんが先頭となって、急斜面を登山するハードな試みであるため、小学生にとっては、ともすると辛い登山体験かもしれない。しかし、このような経験は、将来、必ず良い思い出となると信じている。子供たちには理解できないであろうが、実は、岩場で安全確保を行う亮平さんと写真を撮る私が一番つらい思いをしているのである。

キャンプファイヤーの炎の着色についても、失敗が許されない状況を作り出す児玉実行委員長からのプレッシャーに耐えるはとても辛い。今年は、なんとか成功したが、事前チェックなしの一発勝負の演出なので、炎の発色を確認するまで、すさまじい不

安の重圧に耐えなければならなかった。このようなことは、子供たちは知る由もなく、「岡部リーダーは、キャンプファイアーのときもサボっている」と思っているであろう。

一方、サブリーダーやリーダーとなると、私の苦勞を理解してくれるのか、皆、私にはとても優しく親しみを持って接してくれる。ジャンボリーは一時のイベントであるが、ともに寝泊りした子供達のその後の成長を見たり、一緒に苦勞したサブリーダー、リーダーと後日談で花を咲かせるのがとても楽しい。

今後も、第三地区の将来を担う人材を育てるべく、微力ながらも貢献したいものである。

出典：

武蔵野市青少年問題協議会 地区だより

2016年3月24日

青少協第三地区委員会(委員長 齋藤 理恵)

地区だより

こんにちは！青少協です

「ジャンボリー特集」 こんにちは！青少協です

地区の方より：

岡部 徹：ジャンボリーのサボ？リーダーとして

ジャンボリーのダメ？リーダーとして

(保護者代表) 岡部 徹

ジャンボリーに参加するのも、今年で4回目となった。体力的、スケジュール的には無理があるが、毎年、楽しく参加させてもらっている。失敗談と伝説を生み、後の反省会のネタを作るのが私の役割である。

今年は、一部の高校生の“しっかり者のサブリーダー”をリーダーへの昇格させ一層の責任を持たせるという、前向きな頼もしい試みの実現した。同時に、“頼りにならない岡部リーダーのサブリーダーへの降格”も話題になった。1日分の薪を1回で全部燃やして多量のオコゲを作った事件の張本人だったことや、リーダーなのに数すら数えることができずバスが出発できなかったことなどは、今も語り草となっている。

幸い、キャンプファイヤーの自動点火、炎の着色、トアリング棒の試作などの貢献と、様々な失敗談作り(?)が評価され、今年は足立委員長の温情により、リーダーに残留させてもらった。しかし残念ながら、尾崎リーダーから譲り受けた朝の起床ベル鳴らしの大役は、一日でクビになった。

安全管理ぐらいしか出来ない“頼りにならないリーダー”として私は参加しているので、同じ班の子供達やサブリーダーは実にしっかりする。班のメンバーは、自分達で考えて動き、チームとして野外活動を楽しむことを学ぶので、卒業してからもサブリーダーとしてジャンボリーに再参加する子供も多い。ジャンボリーは一時のイベントであるが、ともに寝泊りし苦労した子供達が中学生、高校生となって“更なる成長”をするのを見るのがとても楽しい。

今後も、笑って語れる失敗談や伝説を生み出すとともに、“皆と仲良くできる”あるいは“しっかり者”の将来を担う人材を育てるべく、微力ながらも貢献したいものである。

出典：

武蔵野市青少年問題協議会 地区だより

2006年10月4日、青少協第三地区委員会(委員長 足立恵子)

2006.No.2

「ジャンボリー特集」 こんにちは！青少協です

岡部 徹：ジャンボリーのダメ？リーダーとして